

資料

※ こまえ平和フェスタのホームページから転載しました。いい写真がたくさん載っているのですが、一部しか転載できませんでした。ぜひホームページをご覧ください。こまえ平和フェスタのホームページは、市役所ホームページの「リンク集」から飛ぶこともできます。

こまえ平和フェスタ 2013 を終えて

こまえ平和フェスタ2013実行委員会

8月25日（日）、エコルマホールにて560名の参加者を得て、こまえ平和フェスタ2013が行われました。雨模様でしたが、多くの方にご来場いただきました。また、引き続き、市役所ロビーにて30日（金）まで展示を行い、約200名の皆さまにご覧いただきました。

来場者アンケートには100名の方が回答され、戦争を二度と起こしてはならない想いととも、舞台や展示への共感と熱い期待が寄せられました。

こまえ平和フェスタは多数の市民の出演者（今年は120名を越える）・展示応募者やボランティアスタッフによって成り立っています。そして、来場者として参加して下さる皆さまがその支えとなっています。多額の協賛金を寄せて頂きましたことを含め、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。

舞台上は、和泉児童館の子どもたちが「みんなと一緒に大好きなダンスを、元気に踊れる平和に感謝し、私たちのパワーをみなさん



に届けたいと思います」と開会宣言を行いました。小学4年生から中学3年生までの20名で構成する和泉児童館チームDの元気なダンスで幕を開け、子どもたちの「躍動感が伝わって」（アンケート）きました。



続いて主催者らのあいさつに移り、西尾真人実行委員長は平和フェスタが粕江手作りの「平和文化」を育ててきたことを述べ、平和宣言都市として再び武器を持って戦うことにならないよう行動しようと呼びかけました。

高橋都彦市長は戦争体験者が少なくなっているが、小さな平和（家族や隣人への愛情）が世界の平和につながると指摘しました。

石井功市議会議長は、戦争を知らない世代だ
が平和フェスタを機会に次の世代に伝えていこう、一青年が狙撃兵に殺されても「異常なし」と報告される映画「西部戦線異状なし」を取り上げ、戦争の悲惨さ・無情さを述べました。

「こまえ工房こもれび」の皆さんは、まず「こんにちは」を観客と掛け合いながら楽しく歌い、次に「花は咲く」を熱唱し、「一生懸命に歌う姿に心打たれる」（アンケート）と観客席から大きな拍手を浴びました。「こもれび」はあいとぴあセンター内にある障がいを持つ方たちの作業施設で、月一回歌の練習をしています。昨年に続く2度目の出演で、手話も交えて平和フェスタに向け練習を重ねてきました。

こまえ
平和フェ
スタの礎
ともなっ
ている



「粕江市平和都市宣言」は昨年から朗読劇形式になり、青年3人によって内容もいっそう充実し、宣言の生まれてきたいきさつ—1982年当時の核軍拡競争に危機感を持った日本中のあらゆる階層の市民の運動から生まれたこと、それが



世界中に広がって行ったこと—が、福島原発事故という現代的な課題にも触れながら語られ、核廃絶を目指そうとの想いが溢れる朗読でした。最後は観客も一緒になって「全世界の非核武装化にむけて努力すること」を宣言しました。



第一部の最後、合唱と語りによる「平和の旅へ」は30分の大作です。長崎で被爆した渡辺千恵子さんの半生を描いたものです。16歳の少女が学徒動員で三菱電機の工場で働いているときに被爆、爆風で背骨を砕かれ、放射能で地獄の苦しみを味わいながらも、後半生は核兵器廃絶のために世界中の人々に語り部として話し続けた一生を描いたものです。放射能で肉が異常な早さで腐っていく、猛烈な下痢と高熱、生死の境を何度もさまよいながら生き返ったが、年若い女性として精神的な苦痛の中で送った生活を赤裸々に描かれています。母親と家族に、そして原爆乙女たちに支えられながら、そこから立ち直っていく姿は感動的です。

演出した大熊啓(実行委員)が10年の間、温め続けてきて実現した作品です。

「合唱と語り」とありますが、それを中心として、独唱が3人、演奏もピアノ・ギター・フルート・ベースそしてトランペットと実に多様なバックが付いていて、これまで平和フェスタでは上演したことがありませんでした。

練習も6月から始め、公募市民の練習時間を増やして臨んだものでした。作詞作曲グループの園田鉄美さんから「この作品を上演することが、今は亡き渡辺さんに代わって、語り部としての役割を果たして」とのメッセージが寄せられています。アンケート結果を見ると、「圧巻」、「涙をこらえられなかった」、「手話通訳者も一体となり、感動」、「一回で終わらせるのはもったいない」と絶賛され、大変に嬉しい評価をいただきました。

第二部の始まりは、「きんたの会」による南京玉すだれが小学生によって披露されました。狛江の昔話、玉泉寺に伝わるかっぱのクー助、藤塚の狐、多摩



川のウナギの話、泉龍寺の龍の話の4話。玉すだれの調べに乗って、実にかわいらしい演技で観客を魅了しました。図書館にある「多摩川の昔話」「狛江むかしね」から脚本したそうです。

いよいよ
メインの石
川文洋さん
「私が見た
戦争と沖縄、
そして福島
～知ってい
ますか、いま
何が起きて
いるか～」の
お話です。

まず、報道
写真家の役
割として、い
ち早く知ら
せるのが役



目だが、その時に起こっていたことを次の世代に伝えていくことも仕事と指摘し、ベトナム戦争を知らない世代が増えていく中で、私が見たベトナム戦争を伝えていきたい、戦争を防ぐためには戦争の実態を知ることが大切だ、ベトナム戦争で亡くなった日本人ジャーナリストは15名、内13名は知り合い、その人たちの鎮魂も込めて、と語り始めました。

出身の沖縄県の基地の話から始まり、言うことが過激で嫌われるかもしれないが、それでも言うておきたいと断りつつ、昨年9月9日のオスプレイ配備反対10万人集会の写真1枚には、オスプレイの危険性だけではなく、宮森小学校への戦闘機墜落事件とか沖縄の地上戦とかそれ以前の沖縄が本土の犠牲になってきた歴史、そうした県民の想いが背景にあると、ほとぼしり出るように数々の事実が語られました。

沖縄からベトナム戦争の写真に入る頃にはもう時間が無くなり、駆け足で話されるなど、時間がもっともっと欲しい！！という期待の中で、「戦争と言うのは民間人が犠牲になる、そのことを声を大にして言いたい」。

そして最後に、福島の南相馬市小高町の駅前通りを訪ねた感想として「(内戦で住民が追い出されて)無人だったプノンペンはいま、大勢の人がいます。でも福島の場合は、いつ帰ることができるか分かりません。プノンペンより状況はずっと悪いのです。戦争では家を破壊されて難民キャンプにいます。戦争が終われば村へ帰って家を建てることができます。でも福島の場合は立派な家があり、自然もある。だけど、戻ることができない。いつ戻れるかも分からない。私が見てきた戦争と比較して、福島の状況は悪い。汚染の問題も解決しないうちに、再稼働と言っている。そう言う場合ではないと思います。福島の人たちが平和に幸せに生活できる状況をつくるのが、いま最優先にしてやるべきことだと思います。」との話には、一瞬息をのむ思いではなかったでしょうか。

福島に行ったお話を時間切れで聴くことはできませんでしたが、この一言で原発事故の恐ろしさ、悲惨さ、当事者の苦しみを感じることができたかと思

ます。

石川さんは開演前に来られ、最初に展示を見て回り、ご希望により一般の観客席から最後まで舞台を観ていました。とても気さくで、庶民的な方でした。



舞台のフィナーレは恒例の「水と緑のまち」を全員で合唱しました。

司会は平和都市宣言朗読劇にも出演した堀添里緒さんと「ミュージカルCoCo～」の田部谷道子さんでした。忙しい中を有難うございました。また、手話通訳と要約筆記は大変に評判が良く、引続いてやって欲しいとの声が毎回届いています。私たちの活動を支えていただき、感謝を申し上げます。

終了後、ホワイエで石川文洋書籍サイン会を行い、多数の方が並ばれていました。

ホワイエでは、石川文洋写真展「戦争と子どもたち」50点を展示しました。10代の方のアンケートの感想に「アフガニスタンの小さな女の子たちの着ている



る衣装が本当に美しく、その美しさがまた、悲しいです」とありましたが、戦争と否応なく向き合う子どもたちの姿、おびえ・悲しみ・悲惨・力強さを見せていただきました。

ご自身の展示内容をカメラに収める石川文洋さん



フリースクール コピエさんの展示 KOPPIE流貼り絵「ゲルニカ」

川柳狛の会さんは発足以来4年連続で平和フェスタに投稿していただいておりますが、今年は14人42句となりました。初めて狛江俳句会さんが参加され、12人25句を寄せられました。短歌も一般投稿で2人から5首の応募があり、平和フェスタの名物展示となりつつあります。これらは印刷物としても配布され、好評をいただいております。狛江俳句会さんからは来年も投稿したいと嬉しい話を頂戴しています。

絵手紙のまち狛江の名にふさわしく、たくさんの方の平和を願う絵手紙が寄せられました。展示スペースが狭く足元までの展示となり、関係者には申し訳ないことをしました。来年はスペースを増やしたいと思います。

初参加のフリースクールKOPPIE（コピエ）さんは、明るい色使いのコピエ流貼り絵「ゲルニカ」を制作し、周りを圧倒していました。フリースクールというのは学校にいろいろな理由で通えなくなった子どものための学校です。勉強もすれば、みんなで遊びも社会的な活動も、創造的な作品作りもしながら、学校と連携して無理なく再び通学できるように活動している団体です。展示ではフリースクールの説明とKOPPIEの活動を紹介して、狛江市民にアピールしていました。

舞台の「平和の旅へ」に応じて、長崎の被爆写真を数点ですが展示しました。

平和図書展示では石川文洋さんの著書を中心に話題になっている「はだしのゲン」を展示・紹介しました。多くの方が手に取り、図書館で借りられることを念押ししていました。

折鶴コーナーでは多くの方に折っていただきました。これは広島・長崎に送らせていただきます。

昨年につき「こまえ工房こもれび」さんによるクッキーの販売、加えて今年にはKOPPIEさんのミニタイ焼きの串刺し「鯛のぼり」も販売しました（石巻市仮設住宅にあるカフェを支援）。いずれも売れ行き好調で、「鯛のぼり」は完売しました。ご来場の皆さま有難うございました。

市役所ロビーでは特別企画として8月29日（木）に1時間ほど穂高健一「海は憎まず」サインセールを行いました。穂高さんは昨年の平和フェスタで津波被災の写真展を行いました。



災害文学として後世に記録を残したいとの想いで毎月のように現地に足を運んで取材され、その折に撮られた写真を展示していただいたものです。今年の4月に小説が完成出版されたので、

今回の運びとなりました。20冊分の売上金は全額、陸前高田市に寄付されました。

今年は市民の方の協力によりホームページを立ち上げることができました。そこで、「平和の旅へ」など、いくつかの練習風景を取材して皆さまの関心を高めていただこうと企画しました。徐々にアクセス数も増えています。引き続きホームページの充実に努めていきたいと思えます。

こまえ平和フェスタは子どもたちや社会的に弱い立場の人たちに常に眼差しを向けています。こうした人たちが安心して暮らせる社会こそが平和の名にたいすると考えているからです。

来年は10回目を迎えることとなります。今年の結果を話し合い、改善し、さらに魅力的な企画を立ててまいります。来年は8月10日（日）が予定されています。今後もご支援をよろしくお願い致します。